

# 大館市教育委員会会議録

日 時 令和5年6月1日(木)  
午後3時30分  
場 所 大館市立中央公民館  
多目的室

大 館 市 教 育 委 員 会

# 大館市教育委員会会議録

1	開会の日時 及び場所	日 時 場 所	令和5年6月1日(木) 大館市立中央公民館	午後3時30分 多目的室
2 出席委員の氏名				
	教育長職務代理者	山 田 和 人	委 員	工 藤 啓 子
	委 員	根 田 穂美子	委 員	小笠原 正 卓
3 欠席委員の氏名				
4 委員以外の出席者職氏名 (なし)				
5 出席した職員の職氏名				
	教 育 長	高 橋 善 之	学校教育課長補佐	工 藤 貴 胤
	教 育 次 長	成 田 浩 司	学校教育課長補佐	北 林 香 子
	教 育 監	長 岐 公 二	教育研究所副主幹	山 本 多鶴子
	教育総務課長	小松原 功 秀	生涯学習課長補佐	羽 沢 秀 則
	学校 教育 課長	鈴 木 明	中央公民館長	外 館 志
	教育 研 究 所長	米 澤 貴 子	歴史文化課長補佐	篠 村 朋 子
	生涯 学 習 課長	糸 屋 みさえ	教育総務課総務係長	柳 谷 真 希
	歴 史 文 化 課長	小 松 工		
	教育総務課長補佐	宮 崎 史 人		
6 会議録署名委員 教育長・山田委員				
7 会 議 書 記 教育総務課 総務係長 柳谷 真希				
8 教育長報告				
	(1)	大館市教育支援委員会委員の任命について		
9 議 事				
	議案第13号	令和4年度教育委員会の点検・評価表について		
	議案第14号	令和5年度教育委員会の点検・評価項目について		
	協議第10号	令和5年度6月補正歳出予算(第3号)案		
10 その他				
	報告	一般財団法人大館市文教振興事業団 指定管理施設令和4年度事業報告		
	口頭	事故報告4, 5月分		
	口頭	大館市教育委員会のホームページ更新件数		
		次回 6月27日(火)長木公民館		

教育長が教育委員会会議に報告する事項

令和5年6月1日

担当課（学校教育課）

報 告 事 項	報 告 内 容
(1) 大館市教育支援委員会委員の任命について	大館市教育支援委員会の委員について、任命しましたので報告します。

議 事 の 経 過	
	開会 午後3時30分
教育長	<p>ただ今より教育委員会会議を始めます。 会議録署名委員については、私と山田委員にお願いします。</p> <p>会議録についていかがだったでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声あり)</p> <p>それでは、承認とさせていただきます。 では、4の教育長の報告事項をお願いします。</p>
学校教育課長	(「(1)大館市教育支援委員会委員の任命について」 を、資料により報告)
教育長	<p>ご意見、ご質問はございませんか。なければ、議事に入ります。 (1)と(2)をお願いします。</p>
各課長	(「議案第13号令和4年度教育委員会の点検・評価表について」「議案第14号令和5年度教育委員会の点検・評価項目について」を資料により説明)
教育長	ご意見、ご質問はございませんか。
委員	<p>一点目として、皆さんに毎回のごとくこういう形の点検・評価でご難儀かけているなということに感謝申し上げたいと思います。今回御説明いただいた課長さんに、これだけの項目の中でなぜそのページを選んだのかとお聞きしたいのです。これだけの資料がある中でなぜここを選んでご発言なされたのかということをご前提として、まずそこを伺いたいです。</p> <p>今回は結構ですので、次回からぜひこれこれこういう理由でここを選んでお話をさせていただきますということをご案内いただいた方が、皆さん思いがあってそこを読んでご報告いただいていると思いますので、ぜひその辺をご留意いただきたいということが一点目であります。</p> <p>次ですが、点検・評価表をいただいて、学識経験者の方からもご意見頂戴してるわけですね。それでその次の年の反省点ということで、点検・評価項目ということで成り立ってくるかと思い、今皆さんのお話の中でそういう点が伺われましたので、学識経験者の方々のお話をしっかり聞いてくださって参考になさっているなということは十分理解できました。その中で、ただ一つ気になったのは、昨年からの給食センターのボイラーのちょっとしたトラブルがあったように記憶していて、そのときに議論させてもらったのは、もっともっと先手先手で設備の維持管理、更新をやっていく必要があるのでは</p>

	<p>ないかなというお話をさせていただいたように記憶しております。そうしないと、ラッキーなことがいつまで続くとは限らないと思います。たまたまラッキーだったと思うのです。ラッキーって続かないです。あるときドンと来たりして、例えば1か月とか、下手するとそれくらいの期間給食できなくなったりというようなことがもしかするとあるやに思います。ですので、そのことを考えると、やはり先手先手で設備の維持改善をしていくという文言がこのどこかにあって欲しかったなということが一つです。</p> <p>もう一点、せっかくですのでお話をさせていただきます。今回のこの点検・評価項目の中で、48ページの中でお話がありましたが、大館文化財保護協会で50回目ということで展示いただいたということで、これもこの前少しお話をさせていただいたところでありました。新聞にも載りまして、清野先生の手紙ではないかというものが見つかったということで、歴史的価値のあるものを常設展示することがあっていいと思うのです。そこをこの前の教育委員会の会議の中で最後、例えばバラ園3階の改築されたところにギャラリーがありますのでそこを利用したらどうだろうみたいな議論があったので、例えば常設展示も含めて検討していくような文言があってもいいと思うのです。せっかくこうやって文化財があるので、「市民に関心を持ってほしい」と書いているのですよね。持ってほしいと学識経験者の方もおっしゃっているのですが、持つ機会がなかなかない。継続的にあるような場所がやっぱりあって然るべきではないのかなという気がします。そうすることによって、市民の歴史に対する関心や誇りが醸成されてくるのかなという気がします。ぜひその辺も含めて、今後の点検・評価項目の中に、ぜひとも入れていただきたいということが私のお願いです。</p> <p>以上3点ほどお話申し上げましたが、よろしくご協力というか、ご検討願えれば幸いです。</p> <p>いただきましたご意見は非常に重要なことですので、ぜひそのような形で進めさせていただきたいと思います。特に実は4年度の点検・評価の中の4ページですが、こちらが学校の中での設備の充実、これに給食設備も当たるのかなと考えておりますが、先手を打ちたいということで、ただ、どうしても緊急度が図られまして、実際にはもう万が一、アウトだったら、それこそラッキーは続かないとおっしゃる通りですので、さらにここの部分を強化した上で、これから先の計画を立てさせていただきたいと思っております。</p> <p>それについてよろしいですか。プランA、プランB、プランCとあって、例えばこれが駄目なら次これだ、これが駄目ならここまでだというようなことを想定しておく必要があると思うのです。そのような計画も必要かと思うので、そういったことも含めて、長期的な計画も立てていただけるといいのかなという気がしますので、あくまでも生徒さんや、市民の命を守るという観点から、お考えをいただきたいということであります。</p>
教育総務課長	
委員	

教育総務課長	はい。そのように計画を進めさせていきたいと思います。
歴史文化課長	おっしゃる通り、貴重な資料が市内にまだあると思います。博物館の中にも展示している資料以外にも収蔵していて皆さんにお見せしていないものもありまして、そうした中で、先日佐竹家の資料展を企画して行いましたので、そういった機会も増やしなが、常設展示できるような場所を検討してまいりたいと思います。たくさんの方々の目に触れていただいて、理解してもらおうというのは本当に重要だと思しますので、進めていきたいと思います。
委員	常設展示を念頭にいただけるといいのかなという気がしますので、よろしくお願ひ申し上げます。
委員	今山田委員が話されたことに少しだけ付け加えさせてください。清野先生の送られてきた書面のことです。例えば、どこにでも展示できるというものではないと思うのです。古い紙というものは非常にデリケートで、湿度や温度が非常に影響して、どこでも展示してもいいというものではありませんので、例えばバラ園の中の展示場はもってのほかだと私は思っているのです。やはり博物館の中のように温度、湿度をきちっと管理できるようなところでない、そういう大事な貴重なものは展示できないということも踏まえてお願ひしたいと思ひます。あと、山田委員も話されていましたが、本当にたくさんの方にその貴重な大館市の財産は、市民の財産でもありますので、たくさんの方に鑑賞していただいて、それをまた後世に伝える意識を子どもたちにも伝わるように、私たちのそれがまた大きな責任、大人の責務だと私は思っている、その辺も考えてよろしくお願ひしたいと思ひます。
歴史文化課長	いろいろご努力しながら、進めていきたいと思ひます。
委員	<p>この3年間、本当にコロナ禍の縛りがたくさんあって大変だったと思ひますが、それが緩和されるということで、まず今年度から本当に各事業政策のいろいろな創意ある取り組みがこれまで以上に成果を上げることを期待したいなと思ひております。</p> <p>4年度の説明のところ、いじめ不登校問題のところの説明がなかったのですが、それこそコロナ禍でいろいろ変わってきて、増えているという話を聞いております。その中でメディアコントロールのことが書かれていますが、一昔前はやはり小中あたりの問題だったのですが、今はもう一気に幼少期の問題だと皆さんわかっている通りだと思ひます。</p> <p>かなり前に有浦小校長先生が保育園か幼稚園に行って講話したという話を聞きましたし、特に就学前の施設との連携というのが今後本当に大事になってくるのではないかなと思ひますので、その辺は5年度の計画にはあえて触れていないと思ひますが、その辺にも力を入れていただきたいなと思ひてお</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>ります。併せて、先ほどお話しした不登校の現状についてはどうなのかなということをお話していただければと。</p> <p>現状につきまして報告いたします。新聞でも取り上げられた部分もありますが、現在小中学校合わせまして令和4年度で111名、小学生が40名で中学生が71名という結果となっています。年々増えています。</p> <p>令和3年度は92から100人台となり、令和2年度は81、元年度は74ちょっと、平成30年度は81という状況で、年々増加傾向にあります。その中で、メディアコントロール、学校運営協議会に何回か出させていただき、学校の校長先生方の不登校に対する対策、そして原因としてメディアコントロール、ゲーム依存があるのではないかとということをお話していただき、学校の校長先生方と教諭も認識しております、それについての対策というのも色々なお便りや保護者説明会などでいろいろご説明されていると伺っております。</p> <p>次の5年度、今後どうしていくのかにつきまして、そういったことを含めまして、おそらく、子どもたちだけでなく親自体がもう少し変わらなくてはいけないという部分もあるのかなと学校の先生はおっしゃっていました。</p>
<p>教育研究所長</p>	<p>付け足します。小学校一年生に入学する段階で既にメディアへの依存傾向がある、そう見られる児童が増えてきているというお話も伺っております。</p> <p>それで、小学校中学校が連携するだけではなくてその小学校区の就学前の施設とも連携して、またその就学前施設の保護者とも連携する必要があると啓発していく必要があるというふうに伺っております。そこで、例えば扇田小学校学区だとか、先ほどお話しにありました有浦小学校学区、あと東館小学校学区から西館小学校学区では既にそういう取り組みがされております。あと養護教諭の先生が実際に子供たちに向けて授業をやったり集会でお話をしたりというようなことも広まってきているところです。また、その不登校の保護者の皆さんに相談の機会をとということで、子育て相談会を年3回、来週金曜日早速1回目が行われますが、非常にニーズが高いので、今までは相談会の後に講話を設けていたのですが、やはり働いている保護者も多いので、講話は別日にして、相談の時間を延長する形にしております。また、夏休みのPTAに向けてどういう相談機関があるのか、そしてその相談機関にどういう相談が寄せられているのかというのを、A4判1枚にして、大館市の相談繋がりイメージをまず研究所を中心に作成をして、各小中学校全てのPTAで配られるようにしていこうということで今話し合いが進められています。</p>
<p>委員</p>	<p>本当に今の子どもたちは生まれたときからすぐスマホとかタブレットがあるような状態なので、小学校に入ってからでは遅いのですよね。今話されたいろいろな取り組みをぜひぜひ今後ともよろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>今日も幼保小の架け橋プログラムの研修会を午前中ここでやったのですが、そのカリキュラムの中でやはりメディアコントロールをとということで、もう幼稚園・保育所・こども園と連携しながらコントロール力をつけるため</p>

委員	<p>のカリキュラムとか、それから先ほど教育研究所長が言っていたように、保護者に対する啓発を十分その時代から、年代からやっていくということは、動き始めました。あとは、まだ生まれる前の状態のときに保健師が保健指導に回ったりするそのときから、もう保護者に対するメディアコントロールの必要性についても指導するということをやっていると伺っております。そのような形で、とにかく先手先手で本当にやっていかないと、111名の30日以上の不登校者全てがメディアいわゆるネットゲーム依存ではありませんが、少なくとも半分ぐらいはいるのではないかなという、つまり、それまでの平成20年代の中頃までの人数の2倍で、ちょうどその増えた部分が、ネットゲームがどんどん子どもたちに入ってきた時代です。ですので、その増えた部分については、かなりそのような可能性は高いと分析しています。あとは、それから脱却させる部分は、実際のケースとして相当難しいです。ただ、病院いわゆる依存症となればもう病気ですので、医療機関でということもありますし、北秋田市の「リフレッシュ学園」という合川地区にあるこの施設は、家庭から切り離して自然体験が十分できる施設なので、単にゲームをストップするだけではなくてその代替りのものを与えるということが必要で、実際に大館から行ってる子どもいますので、北秋田市と話しながら、そういうところも活用しながら開拓を目指していきたいということで、もうやっているところです。</p> <p>その111名の子どもたち全てをしっかりと把握していただいているところに、本当に1人たりとも置き去りしないということで、すごいことだなと思って、感謝申し上げます。</p> <p>いろいろな先生方から話を聞くと、その不登校、しかもそのネット依存が疑われるという児童生徒さんの親も間違いなく同じ症状で、親がもうスマホゲームしたいから、もう子どもに与えて、親は静かにゲームできるみたいな状況で、子どもも親も一緒の状態だろうというケースが多いそうです。そんな中で、例えばそれが学校、教育委員会だけで対応できるかということと全く無理な話で、福祉の方が絡んできたりとか、いろいろな対応をこれから求められるのかそもそも対応できるのかとかそういう議論をしなければいけないということで、本当に教育委員会だけではなくて市長事務部局も、子どもだけではなくて大人の方もしっかりやっていかなければならない、大変なことだと思うので、しっかり対応していかなければならないのかなと感じています。</p> <p>ただ一方で、そのIT機器はこれから我々生きてくためには非常に重要なツールなので、それをしっかり活用していかなければいけない、その我々が道具として活用できるような考え方にシフトしてAIとかそれに我々が支配されるのではないということ、しっかり大人一人ひとりが、理解していかなければならないのではないかなと思います。</p> <p>そのICTのことでちょっとお伺いします。4年度の点検・評価表の方です。今年度の補正予算について、90台の電子黒板、本当にありがたくて、学校の先生方や保護者の方々からもテレビ来るんだねという話を聞いて本当</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



	<p>に我々も嬉しく聞いていたのですが、その一方で、教師用のタブレットのPCが不足しているということずっと聞いています。中には、先生がもう我慢できなくて、自分で買ってしまったと。しかも、それをインターネットにつなぐのがセキュリティの都合から学校では無理なので、自分の回線を使っていて、その点に関しては先生方の負担になっていて、本当に先生方にとって必要なもの、必要なツールだということになっていると思うので、ぜひその辺もさきほど山田委員が投資というお話をされていましたが、このICT機器に関しても、見通しというものが、本当にこの教職員の先生方には、安心感として与えていただけたらと思うということから、今後も毎年こういう目標というのが立てられていくのですが、予算のことなので何とも言えないとは思いますが、そういうところを目指しているところを示していただけたらありがたいなと思います。</p> <p>それともう一つ話を交えて、生涯学習課とNPOで運営なさっている「大館学び大学」の教育視察の受け入れ方法、私もこないだ来月の案内を拝見したのですが、これの実績といいますか、例えば教育視察行きたいというときに、多分教育委員会に電話かかってきて、行きたいですというのが主だと思うのですが、実際にこれを主体にして教育視察を申し込んできた団体を、今把握できているところで結構ですので、教えてもらってよろしいでしょうか。</p>
生涯学習課長	<p>主だって始まっているのが今年度に入ってからです。それで、学び大学とは定期的に打ち合わせの時間を作っているのですが、まず、4月の打ち合わせのときに月1回実績の報告をもらうという話をしております。ただ今年度の7月の6日、7日で開催する東北六県教育委員会の申し込みもそちらのサイトを使ってできるようになっているので、そちらの方からもいくつか申し込みが来ているというのは把握しているのですが、私のところではちょっと件数まではまだ把握できていないところです。</p> <p>学校教育課の方に申し込みのフォームが行くのですが、その連合会のときの大館の授業見学等申し込みは教育総務課になっていくので、ちょっと私のところでは、その連合会会議の時の詳細の件数についてはまだ把握できていないところであります。申し訳ありません。</p>
委員	<p>後で結果だけでもいいのでそこを通して受け入れたところがどれくらいあって、それで今後の見通しまたどうなのかなというのがすごく気になるので、教えていただければと思います。</p>
生涯学習課長	<p>視察の申し込みが学び大学のツールの受付の他に、学校教育課に直接届いたものについても、これまで通り受け入れをして把握していくという方向になっております。</p>
教育監	<p>学校教育課の中の学び大学を通して申し込んできた連絡が最初に受けるのがコーディネーターなので、コーディネーターのところでは全て把握してい</p>

	<p>ます。そこから私のところに連絡が来た時点で「学び大学のフォームを使ってきたものです」と一言があるものとなないものがあるので、全体的に何件という具体的な数字は今ここで申し上げることはできないのですが、私の記憶の中では4件ほどフォームを使っていて、今日来たのもあるので、5、6件になるのではないかと思います。その他に、フォームも全く使わずにまず電話をいただいて、日程を確認して新しくフォームができたということを紹介して、その後訪問いただくという流れもありますが、課題だなど思う部分もありまして、フォームを使うと全国津々浦々誰でも見ることができて、すぐ申し込むことができるという利点があります。実際に申し込みをしてきて、私たちの手元に来たときに、もう2か月後だとか、あるいはもう差し迫っているという状況もあるのです。その中で状況を確認すると、全ての学校の行事にぶつかっていて、いただいた方に希望を返さないといけないという事態もいくつか起きていて、その中で日程の変更をさせていただいたのが1件。それから、残念ながら今回は断念しますという案件が1件ありました。</p>
委員	<p>そういうことはもう致し方ないので、少しでもいい交流に繋がればなと感じています。</p>
教育長	<p>申し込みあれば、ほぼリアルタイムで教育監のところには情報は入るのでしょうか。</p>
教育監	<p>入ります。</p>
教育長	<p>それであれば大丈夫ですね。 あと、先ほどの先生方が使うタブレットが不足だという、そして自分で買っているというような話もあるということについて、お願いします。</p>
学校教育課長	<p>まず最初に、令和2年度にスクール構想によって導入したタブレットの台数を申し上げますと、令和2年5月1日の児童生徒数で換算いたしまして4,354台、その前に購入した数百台もありますが、実際に4,354台が1人1台端末として導入されました。現在の状況が、5月1日現在の児童生徒数は3,908人でこの差額の446台、1台も壊れてなくてなくなったこともないので、現在449台使える状態になっています。 その当時、令和2年10月1日から5年間のリース契約で行っておりまして、その5年リースが終わる時期までに、こういった形になるのか、これは全国的な問題でして国から今現在何の方向性も示されておりませんが、示されたときに、こういった財源確保して先生方の分も一緒に導入できるのかというのを今後まず検討して、積算やシュミレーション結果も考えています。</p>
委員	<p>今のお話ですと、400何台余っているということで、それが教職員の先生方に行き渡るはずだと理解してよろしいですか。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>実際に予備というか、子どもたちが使っていて年に数十台壊れたりしてそのときに予備として学校に置いている部分もあるので、全部先生方が使ってしまうと、子どもたちが使えなくなってしまうので、そういったときにはそれぞれの学校間で融通し合ったりという部分も方策として考えられるのかなと。まず壊れていなければ活用されているという状況だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>運用として始まったばかりなので難しい点はあって、僕が聞いたのは一部の声なので、それが全部そうかというところではないと思うのですが、先生方の負担になってしまうと大変なので、ぜひ何とか不便がないようにご配慮いただければ大変ありがたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>国の考え方の話ですが、システム設計に当たって、子どもたちに1台持たせるのは望ましいことだしそうなのだと思いますが、指導する教員にあってはそうさせていないというシステム自体、設計自体が私は間違っていると思います。</p> <p>実際、国の姿勢がそうであったら、やはりそこは担当の市町村の方で何とかしてあげなければならないことだと私は考えております。もちろん財政的な問題もありますが、そうでないと、せっかくそのように投資して中途半端な結果しか生まれないということもあると思いますので。</p> <p>各教員への充当状況につきましては、次の教育委員会です報告いたします。他にございませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっと議論になってしまうと思うのですが、今までのお金の使い方を見ると、この次、例えば子ども用タブレットパソコンの更新の時期に来たとして、予算措置してもらわないと困るのですが、そうなったときに国・県が考えるのは、自分のデバイスを持ってきて、学校で繋いで、ということを考えてしまうのかもしれないという声も聞こえてきました。これについても、非常に怖いことですが、一方で、不利益を被るのは子どもたちなので、そういったところを僕も考えていきますし、例えば予算の予算とかお金の作り方も議論していかないといけないなと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば5年リースでしたら、それはリース期間が終わると、受け取れるというか、向こうの会社の方でそれは廃棄にするというのも、またそのまま使えるけれどもそれも古くなっていると。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>リース契約が終了すると、無償譲渡という形で市の財産になります。ただそれがそのまま使えるかどうかとなると中身的な問題やOSの部分もありますので、それはそのときに考えます。</p>
<p>教育長</p>	<p>この問題については、大館市だけではなく全国的な問題ですので、それについてはまた別の機会に報告させていただきます。</p>

	他にございませんか。なければ、次の議事に入ります。
各課長	(「協議第 10 号令和 5 年度 6 月補正歳出予算(第 3 号)案」を資料により説明)
教育長	ご意見、ご質問はございませんか。
委員	感謝です。この大館に居てクラシックのコンサートからジャズ、ポップスのコンサートまで聴けるというのは、本当にありがたいことだと思っています。本当に文化の薫りがまだ残っていると思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
委員	先ほどのメディアの話と関連するかもしれませんが、先ほどそれに代わる体験という話がありましたよね、自然体験。本当に読書もその一つではないかなと思っていて、ぜひ子どもたちがもっともっと本を読めるような工夫・改善をしていただければなと思います。図書館事業に期待します。
教育長	他にございませんか。では、承認とさせていただきます。 では、6 のその他に入ります。
教育総務課長	(「一般財団法人大館市文教振興事業団 指定管理施設令和 4 年度事業報告」「ホームページの更新件数」を資料により報告)
教育長	ご質問等ございませんか。よろしいでしょうか。
教育総務課長	(「来月の開催日程」について)
教育長	委員の皆さまからご発言ございませんか。
委員	一つだけ感謝を申し上げます。実は、先週から私の二女が通う中学校で職場体験がありまして、うちの二女が歴史オタクなので、郷土博物館にお伺いいたしました。一日目は大館城の発掘、二日目は展示のお手伝いをさせていただいて、自称大館の歴史オタクと言っている娘が帰ってくると新しく知ったことのマシンガントークで、一日目、二日目とも博物館の皆様それから学芸員の皆様に本当によくしていただいて、ありがとうございます。地元大館の歴史に直に触れるのは本当に大事なことなのだなと僕も一部見させてもらったのですが、その 30 分 40 分だけでもすごく勉強させてもらいました。感謝申し上げます。ありがとうございます。
教育長	私も行ったときに、解説付きで佐竹さんのめくってもらって本当に面白かったですね。本当に小中学生がそうやって触れる機会をどんどん増やしたい

	<p>なと思いますね。ありがとうございます。 ほかにご発言ございませんか。 それでは、以上を持ちまして、教育委員会会議を終了いたします。</p>
	会議終了時刻 午後5時15分